

【件名】

アウトリーチ活動の体制強化について

【要旨】

区が取り組んできたアウトリーチ活動については、後期高齢者の人口割合が高まる中において、継続的な支援が必要なケースに対してより適切に対応していくための体制強化が必要である。今後のアウトリーチ活動の体制強化の考え方を取りまとめたので報告する。

1. アウトリーチチーム体制の課題

区では、地域包括ケアシステムの柱の一つとして、アウトリーチ活動等を通じた潜在的な要支援者の発見、適切な相談支援への接続、継続的な見守り・支援に取り組んでいる。

現在のアウトリーチチームは、区民活動センター及びすこやか福祉センターの職員による各地区6名程度の体制を組んでいる。相談窓口となるのは主に区民活動センター職員で、主訴や状況によってすこやか福祉センターのアウトリーチ担当や保健師等が関わり、チームアプローチで対応している。

対応開始後、数回のうちに支援につながり対応終了となるケースは約75%であり、残りの25%は、既存サービスや居場所につながらず、継続的な支援が必要なケースであり、その対応に苦慮している。

要因として、事務系職員における専門知識や経験値の積み上げにくさ、相対的に少ない福祉系職員の確保の難しさ、保健師の固有業務である母子保健や精神保健における困難ケースの増加などが背景にあり、こうした継続的支援が必要なケースに対応する専門的人材の確保が課題となっている。

2. アウトリーチ活動におけるコミュニティソーシャルワークの必要性

コミュニティソーシャルワークとは、伴走型の個別対応とともに、地域の居場所や支援団体につなぐ社会的処方といわれる支援方策の展開、そうした地域資源の掘り起こしや立ち上げ支援など、個別支援と地域づくりを総合的に展開する相談支援技術である。さらに地域づくりを進めることによって社会的孤立を未然に防ぐ、予防的なアプローチも展開していくものであり、こうしたコミュニティソーシャルワークの考え方に基づく取組が求められている。

2025年を迎え、団塊の世代が75歳以上となり、認知機能の低下やフレイルの進行により生活上の課題を抱える高齢者が増えることが想定される中、コミュニティソーシャルワークを展開できる専門職（コミュニティソーシャルワーカー）を確保し、アウトリーチチームの体制強化を図っていく必要がある。

3. 外部の専門的人材の活用

コミュニティソーシャルワーカーは、地域福祉の専門知識と相談支援技術を有する専門職であり、区職員による人材の確保は難しく、地域福祉を専門的に担っている中野区社会福祉協議会における専門的人材の活用を図る。